手のひらに太陽の家
大場江美さん（サスティナライフ森の家）
日影良孝さん（日影良孝建築アトリエ）

手のひらに太陽の家

1 2 3 4
Like 0　ポスト

1.「手のひらに太陽の家」の概要

宮城県登米（とめ）市に「手のひらに太陽の家」という大きな木の家があります。森林資源を活用することで循環型社会をめざすNPO法人「日本の森バイオマスネットワーク」が東日本大震災で被災した子どもたち・親子のための環境共生住宅として建てたもので、原発事故の放射能汚染を受けた福島県からの親子の「保養」に利用されています。

「日本の森バイオマスネットワーク」は、森林資源の活用として、木材をペレットや薪といったバイオマス燃料、家づくりや家具に用いること、子ども達を育む環境教育の場とすることと、多角的な取り組みをしています。「手のひらに太陽の家」は建築に地元材をふんだんに使っているというだけでなく、木材ペレットをはじめとした自然エネルギーでまかなわれていること、そこで子ども達が自然と触れ合うプログラムを体験できることが大きな特徴です。ハード面、ランニング面、ソフト面と三位一体で、「日本の森バイオマスネットワーク」がめざす「森林と人とが共生するあり方」を体現しているのが「手のひらに太陽の家」であるといえます。

今回の特集ではこの「手のひらに太陽の家」をつくるプロジェクトに「日本の森バイオマスネットワーク」の会員として深く関わった二人の木の家ネットのメンバーにお話をうかがいました。工務店として建築面を担当した大場江美さん（宮城県・サスティナライフ森の家）、「手のひらに太陽の家」というネーミングやロゴデザインまで含めて設計全般に携わった日影良孝さん（神奈川県・日影良孝建築アトリエ）のお二方です。次のような構成でお届けします。

1.「手のひらに太陽の家」の概要
2. 東日本大震災の発生〜「手のひらに太陽の家」構想の誕生
3. 「手のひらに太陽の家」プロジェクトが実現するまで
4. サスティナライフ森の家の取り組み：自伐林業と復興支援住宅

サスティナライフ森の家 代表
大場江美さん

三人の元気なお子さんたちを育てながら工務店「サスティナライフ森の家」の代表として活躍しています。地元宮城県栗駒・鳴子地域の森とつながる家づくりを通して、その名の通り、地球や人と共生できる「サスティナブル（持続可能）な暮らし」をつくるしくみを実現しています。

自身が被災した宮城県内陸地震の体験をもとに、東日本大震災の直後から被災地支援に動き、「日本の森バイオマスネットワーク」の仲間達とともに「手のひらに太陽の家」プロジェクトをたちあげ、2012年にオープン。現在に至っています。宮城県栗原市在住。

サスティナライフ森の家 公式サイト

日影良孝建築アトリエ
日影良孝さん

ご自身も岩手県生まれ。東日本大震災直後に、建築にたずさわる大人として、被災して困難に直面している子ども達をなんとかしなければ！という強い思いをいだき、大場さんとのつながりで「手のひらに太陽の家」の設計に携わることに。

土地取得、資金調達がまったく見えない手探りの状態から、手弁当で宮城に通いながら、設計を担当。「子どもたちが希望を失わないで元気で居られる家」を作ることをめざしました。「手のひらに太陽の家」で木の建築フォラム主催の第８回「木の建築大賞」(2012年度)を受賞。

日影良孝建築アトリエ 公式サイト

一般社団法人くりこま高原自然学校 代表理事
NPO法人日本の森バイオマスネットワーク 代表理事
佐々木豊志さん

栗原市で「一般社団法人くりこま高原自然学校」を主宰し、長年子ども達の環境教育に携わってきた佐々木さん。宮城県内陸地震で自然学校のフィールドである山から一時的に下りることを余儀なくされた時に、森林資源をもっと活用していくことで森を守るという主旨で活動する「NPO法人 日本の森バイオマスネットワーク」の母体となるプロジェクトを立ち上げました。

環境教育や森と人とをつなぐ活動に日々東奔西走しながら「手のひらに太陽の家」の運営を手がけています。

一般社団法人くりこま高原自然学校 公式サイト
NPO法人日本の森バイオマスネットワーク 公式サイト

誰がどのように利用しているの？

大場江美さん：2012年7月の開所以来、2013年末までの時点でのべ223家族、3,397人の親子に利用されてきました。そのほとんどは、大震災後の原発事故後の放射能被害に悩む、福島県からの親子です。寝泊まりとお風呂は家族ごとのお部屋で、食事はいっしょに泊まっている他の家族やスタッフと共に、登米の地元の野菜などを調理して食べる共同生活をここでします。

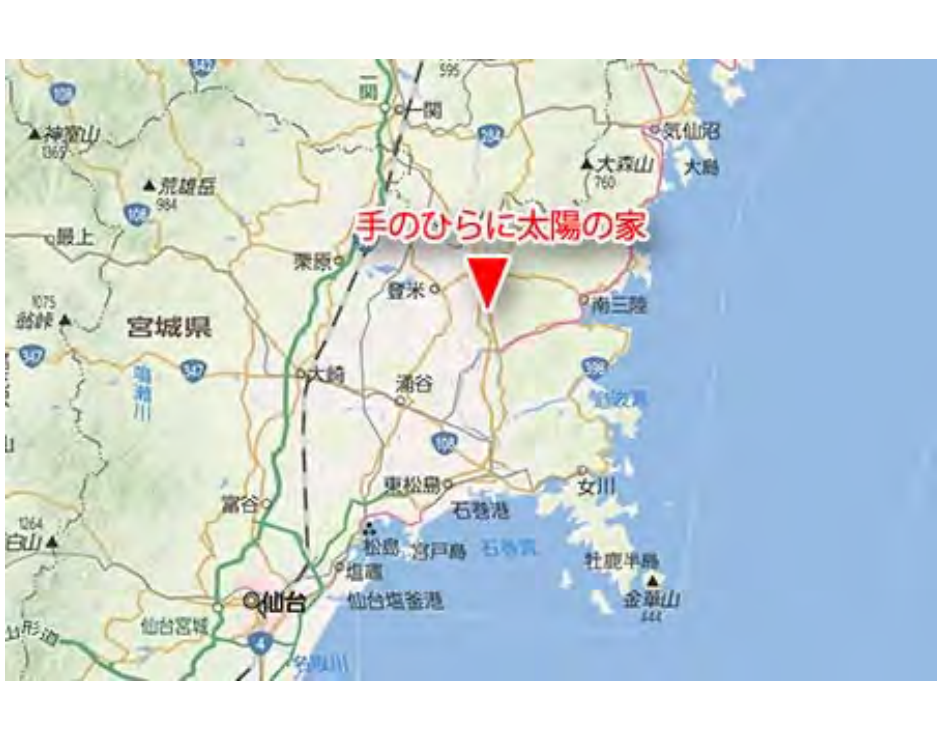
一回あたりの利用日数は２〜３泊から１ヶ月。子どもを外で思いっきり遊ばせる、親子で自然体験を楽しむ、親同士やスタッフと話し込んで気持を発散・整理するなど、直接・間接にかかる放射能のストレスから一時解放される場として活用されています。

利用者の声

> 子どもは心から笑顔で遊ぶことができ、大人は子どもの笑顔で元気になれました。放射能を気にせず普通の生活をすることがこんなに気持ち良いことだったんだと実感。

> 原発事故の時には、実家にみんなで集まって息を殺すように過ごしていましたが、今回はみんなで楽しくのびのびと笑顔で過ごすことができました。また来たいです！

「手のひらに太陽の家」はどこにあるの？



「手のひらに太陽の家」のある登米市登米（とよま）は、津波に見舞われた沿岸の石巻から北上川を遡上したところにある町です。仙台駅からはバスが運行されています。登米（とよま）は歴史のある古い町で、「宮城の明治村」と呼ばれるほど、昔の小学校跡や警察署など、昔からの木造の建物がたくさん残っている、街歩きをしてレトロな雰囲気を楽しめるところです。油麩が有名です。

「手のひらに太陽の家」 全景

その中心部の、体育館、役場、学校が集中する地域の少し小高い丘の上に、「手のひらに太陽の家」はあります。まわりに塀などの囲うものはなく、庭から建物までがよく見える、地域コミュニティーに開かれた場所です。家のまわりには、明治神宮からの苗木や樹木が植えられ、家の前庭 には、井戸のまわりの水辺で利用者とスタッフとで手作りしたビオトープもあります。

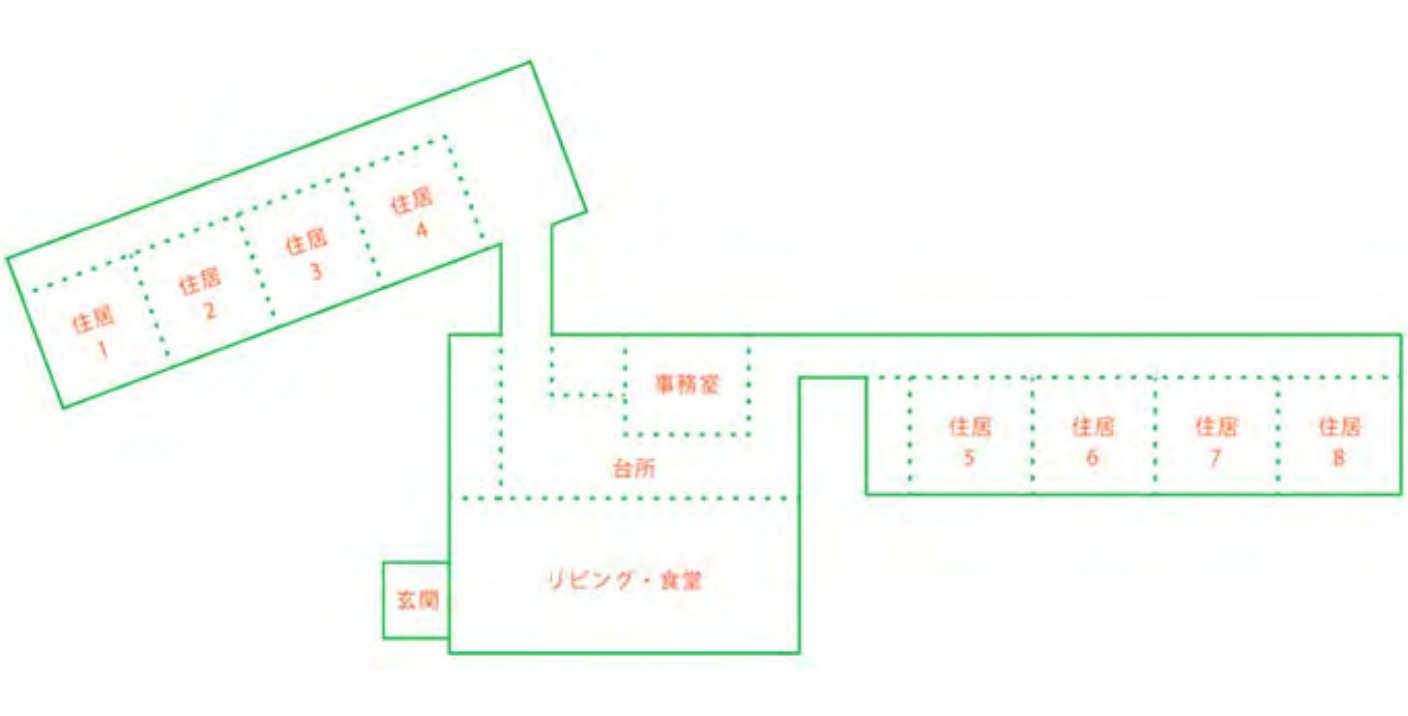
どのような建物なの？

「手のひらに太陽の家」は建築面積118坪、述べ床面積127坪の、地元の木を使い、地元の職人の手刻み・木組による渡り腮・落とし込み板壁構法の建物です。三角屋根の管理棟を真ん中にして、左右に、４つの小部屋が連なる長屋のようなウィングが、大きな鳥が羽根を広げたような形に並んでいます。

日影良孝さん：被災して困難な状況にある親子に、まずは居心地のいい木の空間を提供したかった。それが第一です。ほかにも、森林資源の活用、地元の職人の雇用等、木の家にしたかった理由はいくつもあります。大きな施設だと全部を木で作るのは防火上難しいのですが、中央の管理棟と左右の住居棟とを200平米以下の３つの建物に分棟すること、大きな断面の木を使った燃えしろ設計、内壁と外壁を兼ねる落とし込み板壁等、さまざまな工夫で実現しました。

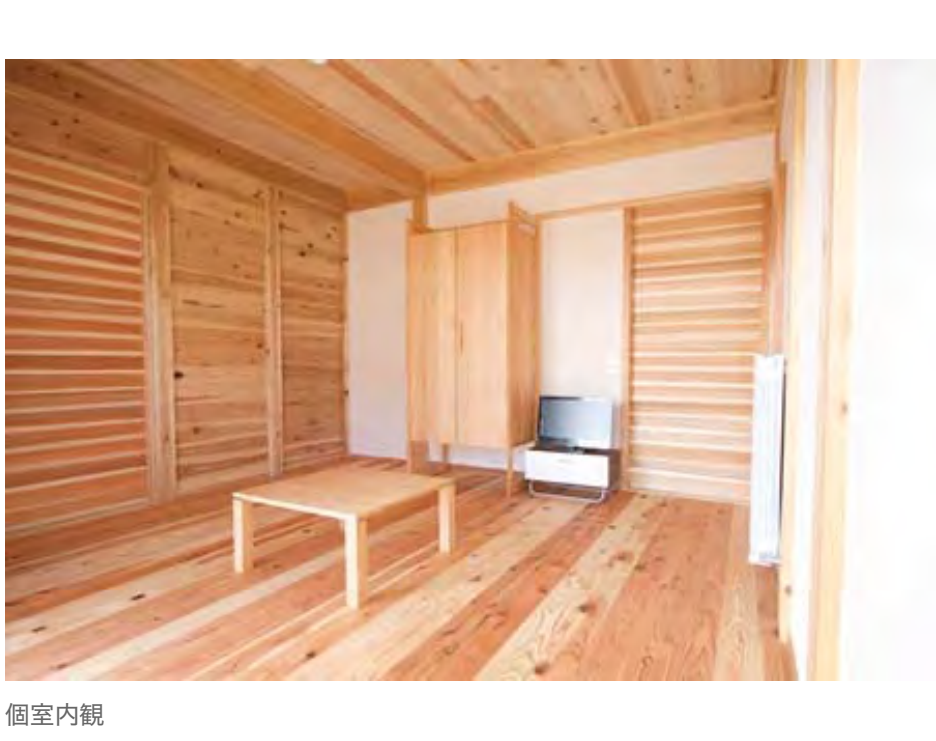
利用者の声

> 「手のひらに太陽の家」に入った瞬間、体中のストレスが消えたように思いました。自然素材のものは人間へのダメージが少なく、本当に素晴らしいと、手のひらに滞在して実感しました。



中央は２階建ての管理棟で、１階は居間食堂と台所とスタッフの事務室があり、２階部分は屋根裏状の広間になっています。東西は長屋状の住居棟で、ユニットバスと収納のある８畳の個室がそれぞれ４つずつあります。寝る、お風呂に入るといった面では家族のプライバシーを保ちつつ、食べる、遊ぶ、集うなどは、共同生活を営むことができます。

寝泊まりは、親子単位。長屋スタイルで



個室内観

個室は、家族が泊まる部屋で、８畳の板の間です。北側の廊下から引戸をあけて、それぞれの部屋に入ります。部屋ごとにペレット温水ボイラーでまかなう温水暖房と屋根に設置した太陽熱温水パネルによって給湯する浴室が備わっています。

この家で必要なエネルギーは、なるべく地域で得られる自然エネルギーでまかなうことで、復興に向けて、原発のいらない新しい社会のモデルとなる家にしようという思いがありました。プロジェクトをたちあげた「日本の森バイオマスネットワーク」の得意分野である、木質ペレットを暖房や給湯の熱源に使っています。

ペレットストーブは、温風の吹き出し口周辺だけが熱いので、上に植物を置くこともできます。

部屋の南は掃き出し窓になっていて、濡れ縁からそのまま外にも出られます。濡れ縁は、ほかの部屋とひとつながり。子ども同士が部屋から見えるすぐそこの外でいっしょに遊ぶことも、気が向いたらすぐに部屋のお母さんのところに帰ることもできます。

放射能の空間線量が気になって、子どもを外で遊ばせていいか悩むという環境から来ているので、とにかく外で遊べることが、親子ともども発散になるようです。

濡れ縁の外で遊ぶ子どもたち

こういった施設では、収容人数を増やすために２階建てにしたり、廊下をはさんで北と南に部屋を配置したりしがちなんですが、「手のひらに太陽の家」では利用者がお互いに平たい関係性を保てるよう計画しました。管理棟を真ん中に配置し、左右の個室長屋のウィングは平屋に。どちらのウィングも廊下を北側に取り、部屋はすべて南向きです。どの部屋からも共用棟への動線や距離は似た感じになりました。

管理棟：ご飯はみんなで作って食べる

管理棟には、広い木の空間にオープンなキッチンと、大きな木のダイニングテーブル。利用者とスタッフがいっしょにご飯を作り、配膳し、食べます。にわか大家族のような環境の中、子ども同士も、親同士も心を開き、遊んだりしゃべったり、リラックスして時間を過ごすようになっていきます。

大テーブルと、左端にあるのがオープンキッチン

放射能を気にせずに食べられる地元野菜中心の食事とおしゃべりが、放射能のことを話題にすることすらはばかられる福島での緊張した生活からの解放になっています。心配なことやこれからのことを自由に話せる。そのことにみなさん癒されるようです。

利用者の声

> 核家族なので沢山の人々にかこまれて良い経験をさせてもらいました。子どもは人見知りですが、少しずつ子ども同士遊べるようになりました。私自身も他のお母さんと交流ができ、良かったです。

> スタッフの方々といろんなことを話したり、聞いてもらって心が軽くなりました。福島の生活は悩むことも多いですが、少し前向きに頑張っていけそうです。

あっちこっちが遊び場

管理棟の二階への階段、宿泊棟への段差をあがる階段など、なるべく広く。間口いっぱいに作りました。「階段の途中」というのは、結構、子ども達が腰掛けて遊ぶいい場所になるんですよ。

柱によじのぼって遊ぶ子

ほかにもこの大きな木の家には、意図せずして子ども達がたまる、滞留する、よじのぼる場所になっているところがいくつもあります。二階の屋根裏のはじっこ・すみっこに落ち着いて何かしたり、長屋の長い廊下を走り回ったり、柱で木登りしたり・・・いろいろに遊んでくれているようで嬉しいです。

二階の屋根裏

プログラム

「手のひらに太陽の家」で共同生活をしたり、敷地内や近所で遊んだり散歩したりするほかに、森の中で自由に遊ぶ「森のようちえん」や、北上川や栗駒山といった周辺の豊かな自然環境を活かしたキャンプ活動なども行われています。

普段、ハイキング、野外炊事、川遊びなどを楽しむプログラムに参加していただき、福島を離れて保養するという以上の、積極的に自然と触れ合う機会を作るようにしています。

利用者の声

> これからますますこのような場が必要だと感じました。週末ごと遠方に行くのは計画するのも大変な労力が必要だし、経済的にも無理があります。それが半永久的に続くのです。ここに来て子どもは自然にふれて走って遊び、親はいろいろ語り合う・・・ずっと必要です。

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事
2019年6月15日 やさしくて強い、理想の家を求めて: アイ設計研究室 大前泰秀さん
2019年5月15日 磨き上げた職人技で、木を生かす：西岡建築一級建築士事務所　西岡健一さん
2019年4月20日 大工と左官の職人プロジェクトチーム 総合建築植田 植田俊彦さん 俊司さん
2019年4月10日 本物の家づくりを、自由に、楽しんで：株式会社木神楽　高橋一浩さん
2019年1月5日 新春特集 2018年のベストショット集
2018年12月29日 板倉仮設住宅 移設ものがたり part3 大工の声＆今後の課題編
2018年12月17日 板倉仮設住宅 移設ものがたり part2 実録編
2018年12月14日 板倉仮設住宅 移設ものがたり part1 概要編
2018年9月4日 番匠 剱持工務店 副棟梁・剱持大輔さん
2018年8月15日 鶴岡総会予告 その１　散るより、生き延びよ！

人気のある記事
伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 18件のビュー
家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー
設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家 11件のビュー
工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー 8件のビュー
設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家 5件のビュー
家にお風呂が入るまで 5件のビュー
無くなっては困る！刻み用電動工具：込み栓角ノミを復活させるためのアクション 5件のビュー
サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート 5件のビュー
日本人の暮らしと木 4件のビュー
込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記 4件のビュー

この記事のタグ
木の家の暮らしと子育て
災害と木の家
環境と共生する家づくり

同じタグがついた別の記事
2005年4月27日 サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート
2014年8月8日 設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家
2007年6月27日 つくり手の声：暑さ寒さとつきあう知恵
2007年4月1日 設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり
2011年10月27日 工務店・直井徹男さん(エコロジーライフ花)：発信しつづける工務店、人が育つ工務店

佐々木豊志さん：先日、地域もバラバラな子たちが一緒に泊まる子ども達の合宿をしたんですが、たった一泊でも、ほかで一週間やったぐらいお互いが親しくなるんですよ。室内でも遊べる場所がたくさんあるのもいいんだと思います。日影さんが「子ども達がつながる」ために心をこめて設計されたことが、実際にそうなっているなと実感しています。

建設費は？ 運営主体は？

「手のひらに太陽の家」の土地取得および建物の建設は、アウトドアの総合メーカー、モンベルグループの全面的な協力により実現しました。

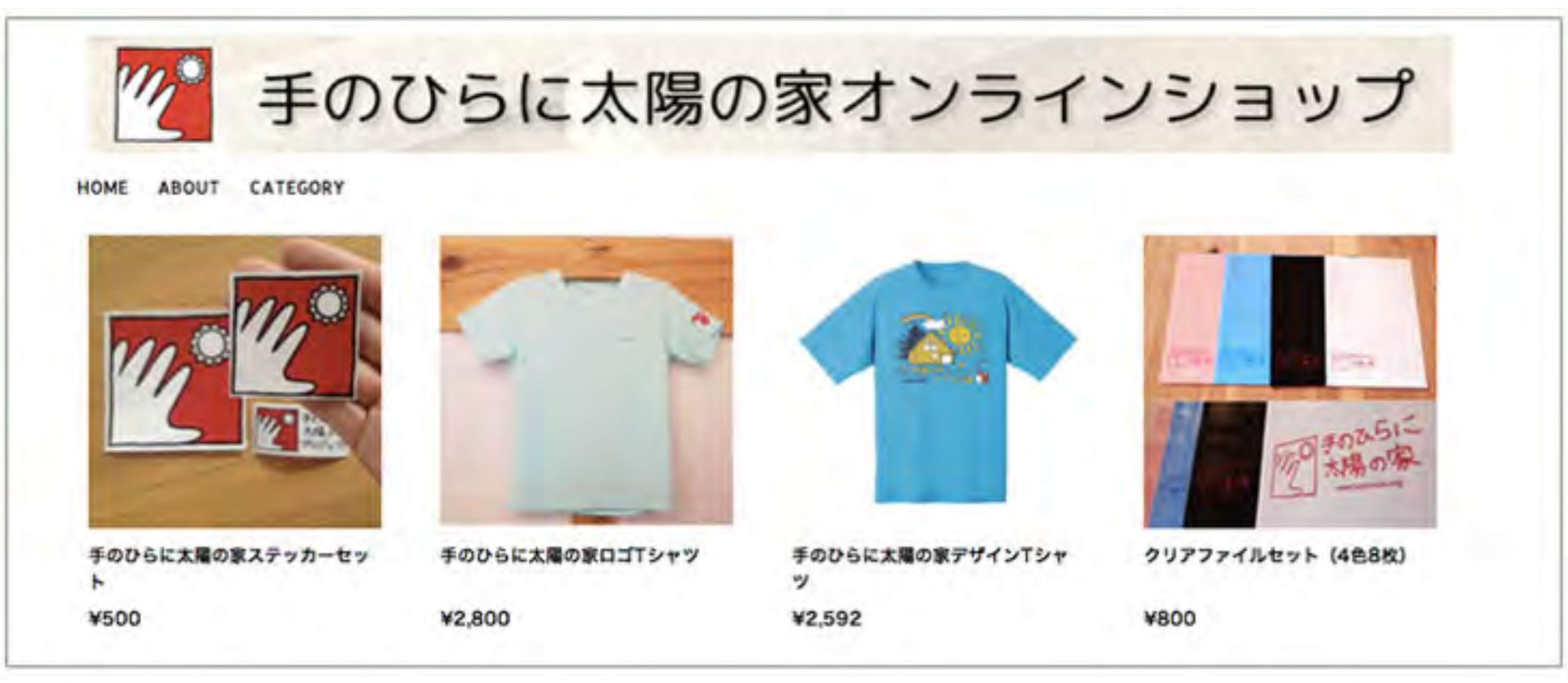
2013年度いっぱいまでは「手のひらに太陽の家」を立ち上げた「日本の森バイオマスネットワーク」が運営をしていましたが、震災から丸三年が経ち、補助金や寄付金が少なくなってきた2014年度からは、一般社団法人くりこま高原自然学校が代わって運営主体となりました。自然体験プログラムや企業研修などの採算事業を組み込みながら、福島からの利用者にはスポット的に、寄附金の予算内で利用料無料という形での受け入れを行っているということですので、利用されたい方は「手のひらに太陽の家」にご相談ください！

福島の子ども達の受け入れを 今後も継続していきます

放射線量の高い地域での生活を強いられている子どもたちは、今でも自然の中で存分に遊ぶことも出来ず、心身に大きなストレスを抱えています。この問題を受け止め、少しでも子どもたちの遊べる環境を提供することは大人の責任ではないでしょうか。「手のひらに太陽の家」でもそうした子どもたちを受け入れて、伸び伸びと自然の中で遊ぶ場を提供していきたいと思います。

「手のひらに太陽の家」プロジェクト
代表 佐々木 豊志
（一般社団法人くりこま高原自然学校・NPO法人日本の森バイオマスネットワーク代表）

被災された方以外にも「手のひらに太陽の家」は研修施設としてどなたにもご利用いただけます。自然環境や自然の中でのコミュニケーションを学べるくりこま高原自然学校の研修プログラムもいろいろあります。合宿、勉強会、社員研修など、みなさんにご利用いただくことが、福島の親子支援を今後も続けていく資金源ともなります。どうぞよろしくお願いいたします！



手のひらに太陽の家オンラインショップ

HOME ABOUT CATEGORY

手のひらに太陽の家ステッカーセット	手のひらに太陽の家ロゴTシャツ	手のひらに太陽の家デザインTシャツ	クリアファイルセット（4色8枚）
¥500	¥2,800	¥2,592	¥800

通販グッズを買っていただくことが「手のひらに太陽の家」の支援になります！ オンラインショップよりどうぞ！ 新デザインのTシャツもできました。４ページめの最後に、大場さん親子が着用している写真がありますのでご覧ください！

1.「手のひらに太陽の家」の概要
2. 東日本大震災の発生〜「手のひらに太陽の家」構想の誕生
3. 「手のひらに太陽の家」プロジェクトが実現するまで
4. サスティナライフ森の家の取り組み：自伐林業と復興支援住宅

Like 0 ポスト

1 2 3 4

手のひらに太陽の家で開かれたミニコンサート

関連する記事はこちら

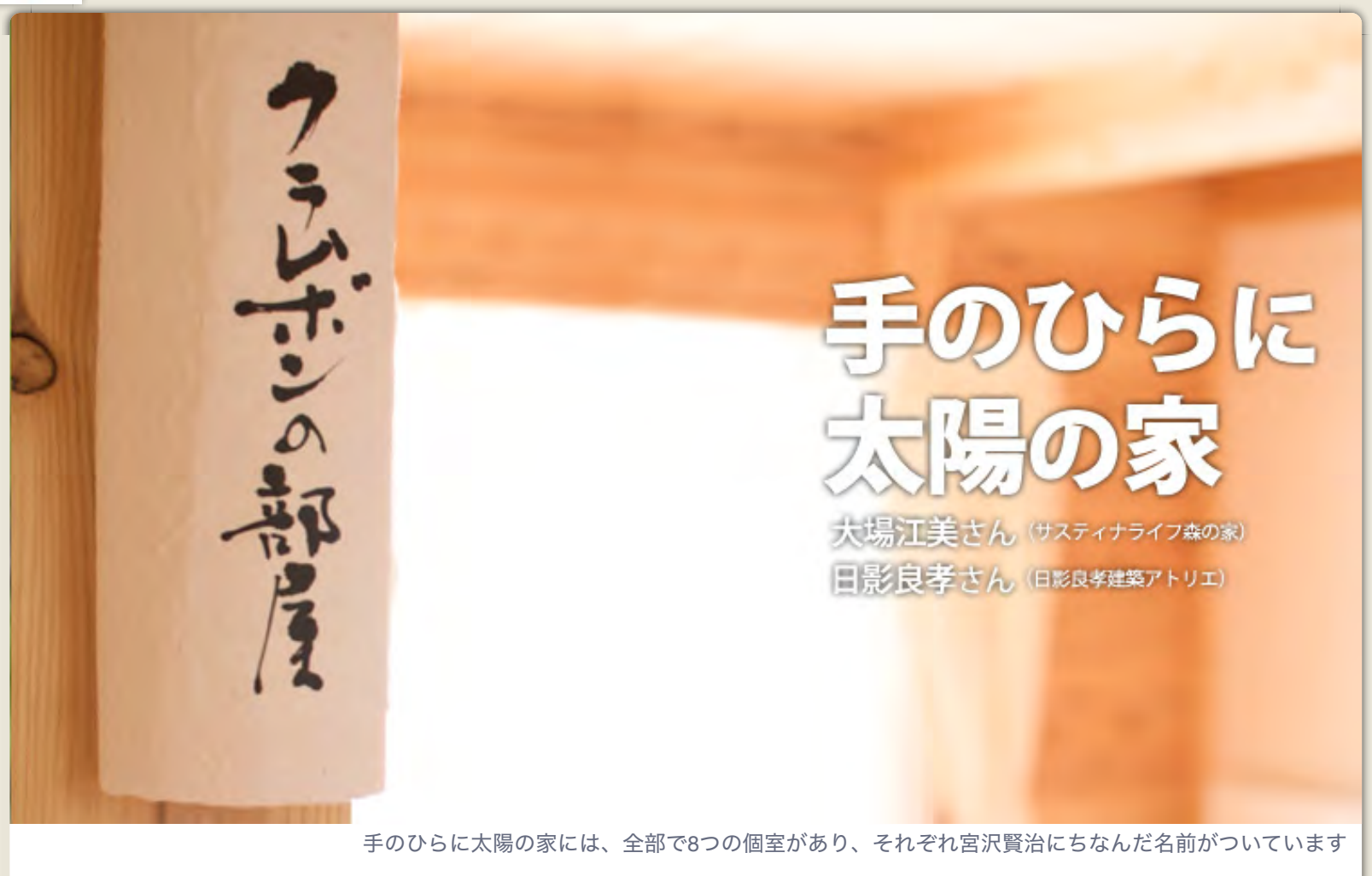
里山循環大工：池山琢馬（一峯建築設計）

3.11後を生き抜くコミュニティーの力　牡鹿半島福貴浦より

原発に頼らない家づくり＆暮らし方

木の家ネット会員の声：地震・津波・原発災害で考えた事

つくり手の声：暑さ寒さとつきあう知恵


クラムボンの部屋
手のひらに太陽の家
大場江美さん（サスティナライフ森の家）
日影良孝さん（日影良孝建築アトリエ）

手のひらに太陽の家には、全部で8つの個室があり、それぞれ宮沢賢治にちなんだ名前がついています

1 2 3 4

Like 0　ポスト

2. 東日本大震災の発生
〜「手のひらに太陽の家」構想の誕生

「日本の森バイオマスネットワーク」の
全国の仲間にインターネットで呼びかけて

木の家ネット ヨハナ：2011年3月11日に震災が起き、東北地方の沿岸部が壊滅的な被害を受けている様子を見て、誰もが「何かしなくては」「自分に何ができるだろう」思いましたよね。ルートがある人は救援物資を送る、動ける人は現地に行ってボランティアをする、なにもツテがなくても寄附や募金をする、さまざまな動きがありましたが、大場さんはその時、どうされていたのですか？

大場江美さん：同じ宮城県内の沿岸部が津波でめちゃめちゃになったと知り、何とかしなきゃ、と居てもたってもいられない気持でした。といっても、自分たちも津波にこそ遭ってはいませんが、電気もこない、ガソリンもない、仲間と連絡も取れない、という状況で、さて、どうしようか！というのがスタートでした。

同じ宮城県内ですものね。動くに動けない状況だっだでしょう。

なにしろ、電気がまったく来ないので、ネットは満足に使えない。電話もめったにつながらない。困りましたね。栗原から鳴子温泉を越えて山形まで行けばなんとか通じるという状況の中、たまにつながる電話で話したり、メールよりスピードの早いツイッターに状況を書いたりしながら、「日本の森バイオマスネットワーク」の仲間たちに呼びかけました。

「日本の森バイオマスネットワーク」とはどのような団体なのですか？

森林資源の活用を通して循環型社会をつくりだしていこうという主旨で2009年に発足した団体です。森林は、家や家具の材料になる木材はもちろん、薪や木質ペレットといった再生エネルギー源を産出し、子ども達の環境教育の場ともなります。ネットワークを発足した時のスタートメンバーの顔ぶれも、佐々木豊志さんはくりこま高原自然学校を長年運営してきていますし、古川正司さんはペレットストーブを製作するさいかい産業を起こした方、うちは工務店と、まさにこの森の多面的な性格と呼応しています。可能性をもった森林資源を、使っていく暮らしを広めることを通して山を再生しようということで、植林活動や森の手入れ、持続可能な暮らしを実践するための講座、親子で森の自然を楽しむイベントなどで「森とつながる意識」を育てることに重点を置いた活動をしています。

佐々木豊志さん：2008年6月14日「岩手・宮城内陸地震」で私が主宰するくりこま高原自然学校は被災し、避難指示が出されました。結果的には二年もの間、山から下りての活動を模索せざるを得なくなり、里に民家を借りてどのような事業ができるかを模索し、農山村の活性化に支援する内閣府の「地方の元気再生事業」に３つのプロジェクトを提案して、助成金を申請しました。その中のひとつとして荒廃した森林を活用するプロジェクトがあり、そのプロジェクトの委員会が、バイオマスネッネットワークの母体となったのです。

「木質バイオマス＝森林資源」を真ん中に集まった異業種が協力して活動している団体なんですね。どのような活動を展開しているのですか？

森林資源を、使っていく暮らしを広めていこうということで、植林活動や森の手入れ、持続可能な暮らしを実践するための講座、親子で森の自然を楽しむイベントなどで「森とつながる意識」を育てることに重点を置いた活動をしています。

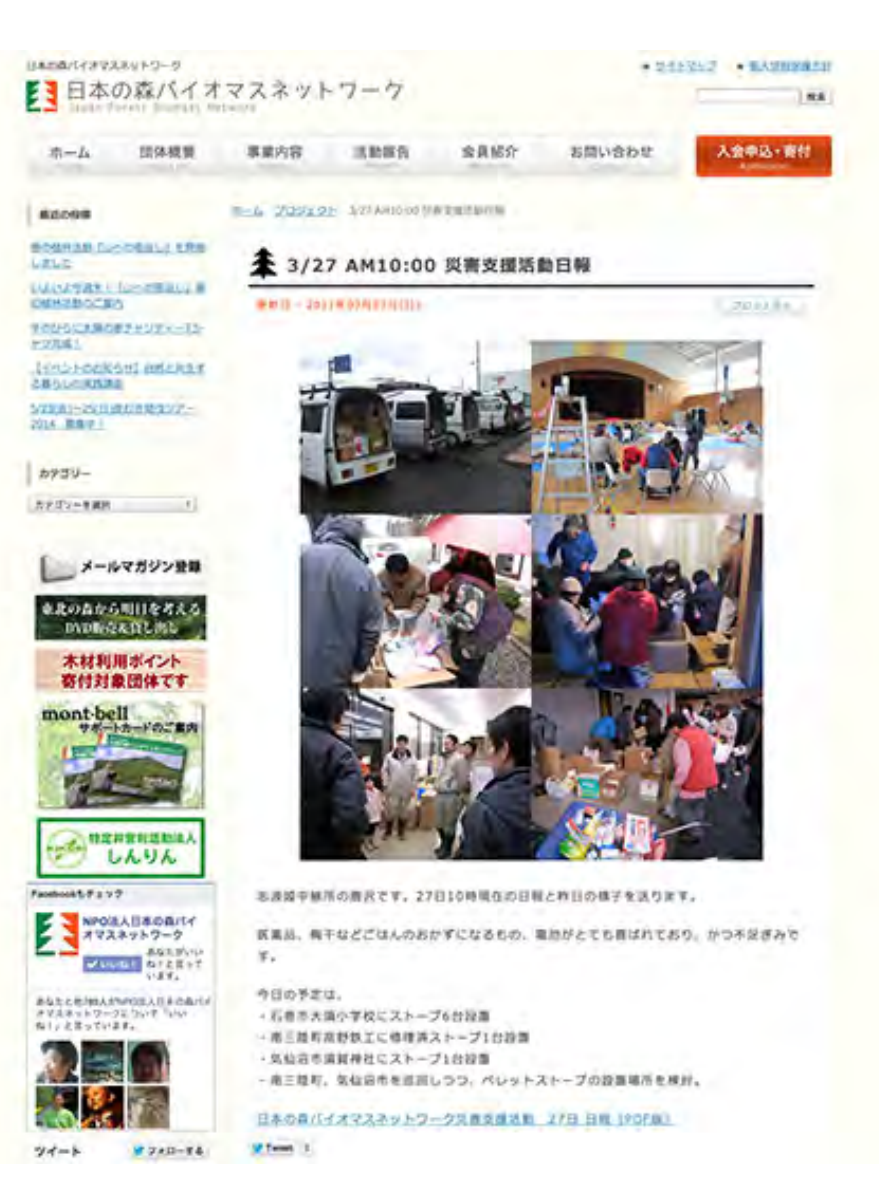
「日本の森バイオマスネットワーク」のこれからですが、「Treesm」を提唱していきたいと考えています。「Treesm」とは、木材のトレーサビリティーのことで、その木を誰が植えて、どのように育てたのか、誰が伐採したのか、という、一本の木の入り口から出口までの履歴が、それぞれの産地ごとに分かるようにしたいのです。森と人とが、顔の見える関係でつながっていけたらいいな、と思っています。

「日本の森バイオマスネットワーク」フリーペーパー
「ふんわり」

「自然と暮らし、自然に学ぶ、豊かな暮らしを考える」というキャッチコピーの通り、日本の森の話、季節の自然遊び、木の家づくり、森のようちえんの活動など、暮らし全般にわたる話題が満載。これは宮城版で、山梨・岐阜・首都圏でも、それぞれの地域に密着した内容で作っている。

日本の森バイオマスネットワーク 公式サイト

で、停電がずーっと続く中で、奇跡的に連絡がつながった時に断続的な情報をネットワークの仲間に流して「宮城にいる自分たちが実働部隊として動くから、支援を頼む！」とお願いしました。ホームページを管理してくれている東京在住の仲間が頻繁に情報を更新してくれたことが、多くの方からの支援を寄せていただくことにつながりました。ネットの力、それ以上にネットでの発信をがんばってくれる人の存在に助けられました。



日本の森バイオマスネットワーク

ホーム　団体概要　事業内容　活動報告　会員紹介　お問い合わせ　入会申込・寄付

3/27 AM10:00 災害支援活動日報

日本の森 バイオマスネットワークのWebサイト。東日本大震災から２週間あまり後の「災害支援活動日報」のページ

石油や電気を使わないで暖をとれるよう、
ペレットストーブを届ける

で、どのような支援に動いたのですか？

寒い時期でしたよね。電気が来ないので、電池で聞くラジオからしかニュースは入らなかったのですが「津波で助かったのに、低体温症で亡くなる人が続出している」ということをラジオで言っているのを聞いてしまったんです。

灯油も電気がなくて、暖をとることができない避難所もたくさんありましたものね。

「倉庫にはペレット燃料がたくさん、ある。ああ、ペレットストーブさえあれば、暖を取れるのに！」と。その瞬間に、ペレットストーブを沿岸部に届けよう！と決めたのでした。うちにはペレットストーブはないので、バイオマスネットワークの仲間で新潟でペレットストーブを作っているさいかい産業の古川さんに連絡をとろうとしたんですが、これが、なかなかつながらない。

三陸海岸沿岸部の木の家ネットメンバーの安否確認をとろうとした時も同じような状況で、ほんとにつながらなかったですよね！「最終的には災害伝言ダイヤル」を利用した記憶があります。

何回かけてもつながらない、ということが続いているうちに、たまたま、古川さんからのコールバックがあったんですよ。震災二日目ですよ！ほんとに電話がつながらない時期だったので、びっくりしつつ、とっさに「代金後払いでペレットストーブを５台送ってほしい」とお願いをしました。そしたら古川さんは「何を言ってるんだ、20台協力させてよ！これから徹夜でがんばって組立てておくから、トラックで取りに来て」とおっしゃってくださったんですよ。ありがたかったですね。で、栗原からトラックを出して山形経由で新潟まで取りに行き、全国から集まった支援物資とペレットストーブと燃料用のペレットと薪で入れるお風呂を、沿岸部に運びました。これが初回で、その後さいかい産業さんからもう20台無償で提供していただいたのと、個人から寄附としていただいた３台とを合わせて、43台のペレットストーブと、同じく全国から寄せられた20トンのペレット燃料を届けることができました。

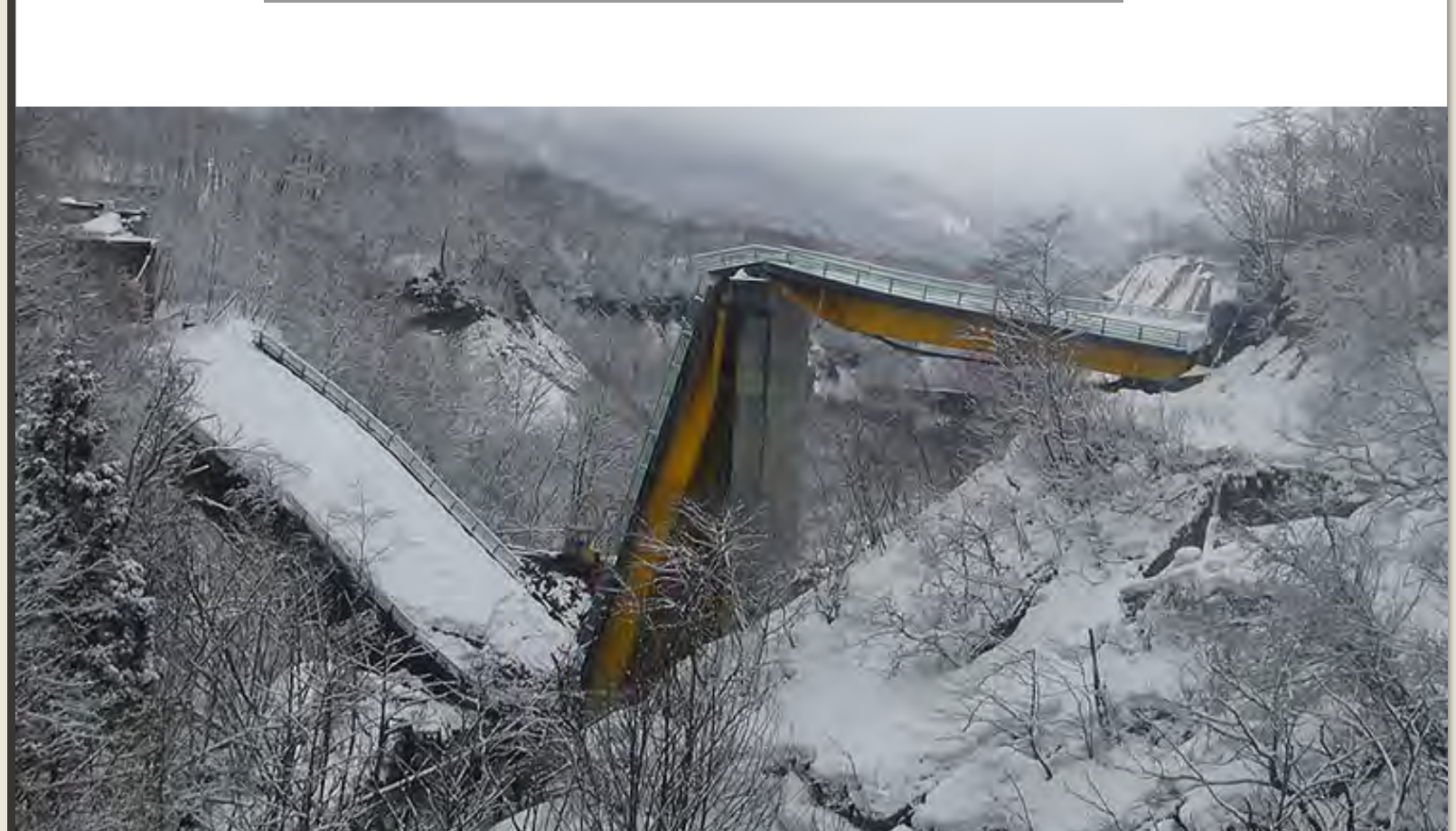
南三陸へペレットストーブ・発電機設置（「日本の森バイオマスネットワーク」のWebサイトより）

宮城県内陸地震の体験から、
地域資源でのエネルギー自給をめざす

東日本大震災の３年前に、大場さんたちのいる栗駒エリアが宮城県内陸地震に遭われたとのことですが、その時は、どんな様子だったんですか？

私達家族が住む栗原市は震源地だった栗駒山の麓にありますから、あっちこっちで地崩れ、道路やインフラが寸断されて大変でした。私たちの家は大丈夫でしたが、バイオマスネットワークの代表である佐々木さんが主宰するくりこま高原自然学校のあたりは、避難指示区域となり、自衛隊のヘリで下山させられることになってしまいました。自然学校のスタッフは２年間、里で仮設暮らしをしたんですよ。

仮設住宅は、市町村が土地を提供し、県が建物をつくり、国はその資金を出す、という枠組みで作られることが災害救助法で定められています。東日本大震災では、それでは間に合わず、既存の住宅やアパートを借り上げて「見なし仮設」とすることもできるようになりましたが、当時はまだそのような位置づけがなかったので、近くに空いている雇用促進住宅などがあるにも関わらず、プレハブに住まわさせられ、自然学校のスタッフは理不尽な生活を強いられていましたね。



2008年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震により倒壊した、栗駒山近くの祭畤大橋（まつるべおおはし）。この橋は、2代目となる新橋が完成した後も災害遺構として保存されている。

東日本大震災の前に身を以てそのような経験をしていたことからこそ、動きが早かったのですね。

内陸地震の時に痛感したのは「大きなインフラに頼らず、身の回りの資源で生きていけるようにならないと」ということです。地元が林業地であることから、これからの山は木を出すだけでなく、石油や電気に頼らないバイオマスでのエネルギー自給も手がけていかなくては、という問題意識をより強くもつようになりました。

海の人と山の人の
顔の見えるつながり

ペレットストーブを持っていく先のアテはあったんですか？

まずは、内陸地震の時に、助けてくれた沿岸部の南三陸の人たちに届けようというのが最初でした。

親戚とかですか？

そうではないんですけれど、昔から、漁期が終わると海の人たちが山の方の温泉に湯治に来る、という伝統があるんです。家族ごとに「行きつけの温泉」というのがあってね。その温泉地が地すべりでやられたと聞いて、余震もまだあるような時期に、支援物資を持って、沿岸部からかけつけてくれたんです。今こそ、そのご恩返しをする時だ、と思いまして。

海の人と山の人との顔の見えるつながりがあったんですね！

まずは連絡がとれないでいた志津川の知り合いを探しあてて、無事にめぐりあえると、そこから口コミの情報がいろいろ入ってきました。それをたよりに、お寺や地域の公民館など、自衛隊が入らないような、小さな場所で住民が避難している場所を訪ね歩いては、ストーブを設置していきました。

寒い時期だったから、喜ばれたでしょう！

ストーブ設置（「日本の森バイオマスネットワーク」のWebサイトより）

木造で仮設住宅を！

どんどん集まる救援物資や燃料のペレット補給にまた一巡するうちに、避難所に住んでいるみんなの大変な環境をなんとかしなければという思いが強くなり「人道支援の次は、木造仮設を」と関心が移行していきました。

木の家ネットのメーリングリストでも、木造で仮設を作れないか、という話で持ちきりでしたし、その実現のために動いた人たちも結構いました。でも結局、木造仮設ができたのは、前々からそのような準備をしていた岩手県の住田町と、森林資源の活用を考えて板倉構法に積極的に取り組まれていた筑波大学名誉教授の安藤邦廣さんが中心となった福島県いわき市ぐらいでした。

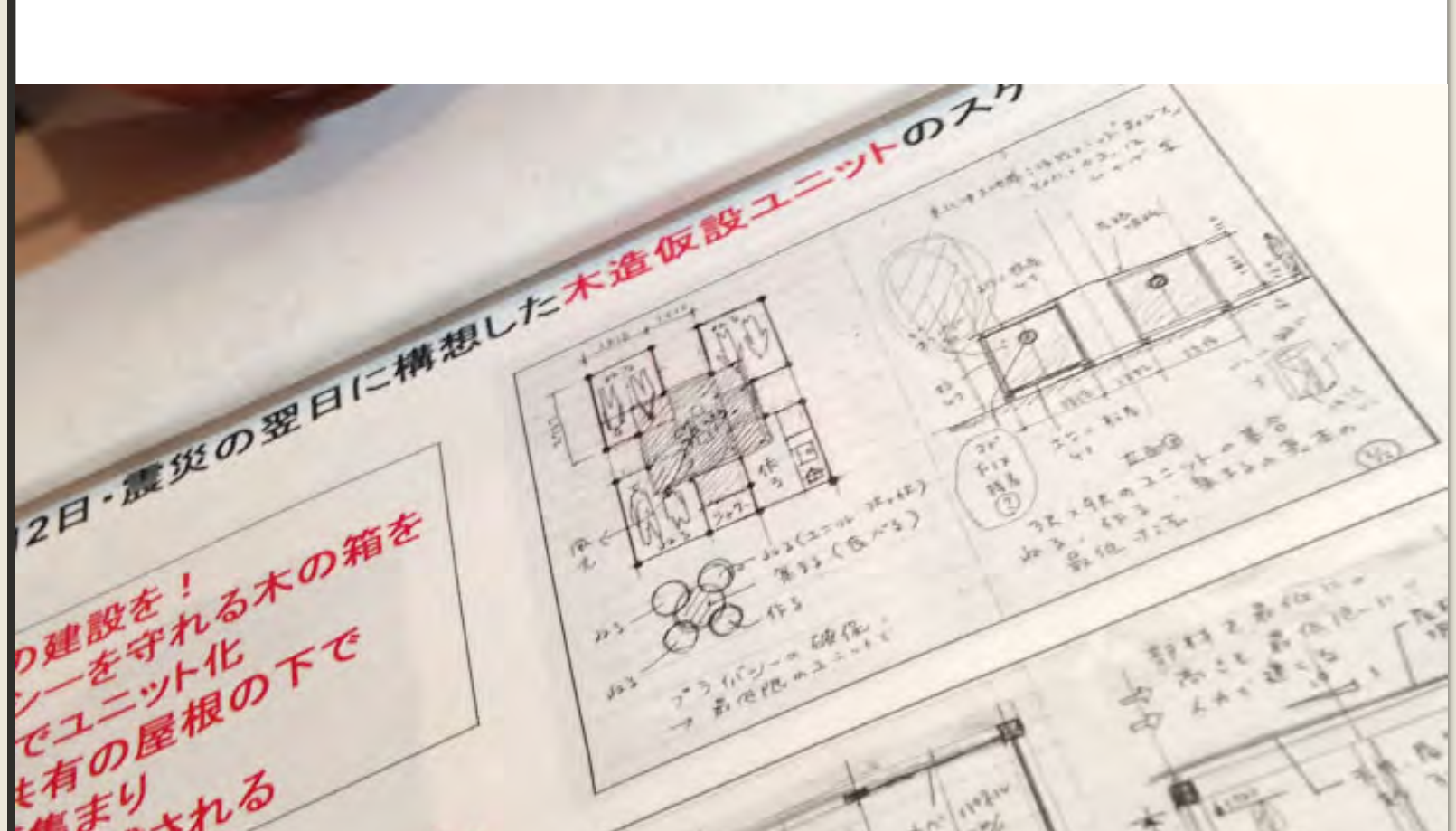
私たちも、震災後すぐに仲間の日影さんから「木造仮設住宅の可能性の検討」というスケッチを受けとっていましたし、物資を運ぶのに自分たちであっちこっちの避難所を見ていて「復興への過渡期にみんなが住むには、こんな感じがいいんじゃないかな」というイメージは持っていたのですよ。

それはどんなイメージだったんですか？

学校や体育館などに自治体が開いた避難所のほかに、ほかにも、近くのお寺や集会所などに自主避難してそのまま集団生活しているようなところも、避難所として認められていたんですね。私たちがペレットストーブを届けたのは、そのような自衛隊の行かない、小規模な避難所でした。大きな避難所には、段ボールに入った救援物資がたくさん届いているし、自衛隊や応援するボランティアも来ているんですけれど、小規模な避難所には、物も少ないし応援も来ていないんです。けれども「自分たちのことは自分たちでやる」気風があったんですよ。薪を拾う集めて来る人、火の番する人、調理する人とうまく分担して、少ないものを分け合って食べたり、掃除当番なんかもちゃんとあって、こざっぱりとしていました。

被災者として支援されるのを待っているというよりは、被災はしたけれど自分たちで暮らしを築いていこう！という感じなんですね。

そうなんですよ。で、日影さんにもらっていた仮設住宅のスケッチにも、そんな感じが描かれていて「ああ、暮らしを立て直して行く時期には、最低限のプライバシーは確保しながら、助け合って共同生活ができるような家があるといいんだな」というイメージができていったんです。



震災翌日に書いた木造の仮設住宅のスケッチ

で、さっそく、坂本龍一さんがやっている社団法人モアツリーズからの申し出を受けて、南三陸町に木造仮設20棟を建てる方向で両者の間をつなぐために動き始めました。ところが、南三陸町の町役場自体が、40名の職員の方が津波で亡くなるという状況で、当然の事ながらてんやわんやで「土地は市町村で提供できても、建築は県が担当することなので、県に言ってください」と言われました。で、県にかけあったはみたのですが、残念ながらこの話は実りませんでした。

え、どうして？ 地元の木で木造仮設って、地元の山のためにも雇用のためにもいいように思いますが・・・？

宮城県からの返答は「仮設住宅はプレハブ建築協会に頼んでいるから、民間からの個別の提案には応じられない」という返答でした。

宮城県もいっぱいいっぱいだったのでしょうけれど、せっかく民間で実現できる形があったのに、理解が得られなかったのは残念ですね。

というようなやりとりをしているうちに、どんどんプレハブの応急仮設住宅が建設されていって、木造仮設住宅を提案できる時期が過ぎてしまったんですね。

南三陸での木造仮設を断念してから、「手のひらに太陽の家」プロジェクトへは、どのようにつながっていったのでしょうか？

1.「手のひらに太陽の家」の概要
2. 東日本大震災の発生〜「手のひらに太陽の家」構想の誕生
3. 「手のひらに太陽の家」プロジェクトが実現するまで
4. サスティナライフ森の家の取り組み：自伐林業と復興支援住宅

Like 0　ポスト

1 2 3 4

震災直後の記録写真（日本の森バイオマスネットワークのWebサイトより）

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

- 2018年3月27日 伝統建築に携わるすべての職人に光を
- 2018年2月7日 「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」ユネスコ無形文化遺産候補選定のおしらせ
- 2018年1月2日 新春特別企画 2017年のベストショット
- 2017年12月14日 第17期木の家ネット総会：倉敷大会 - 民家改修と曳家-
- 2017年10月14日 気候風土適応住宅のチラシができました！
- 2017年9月4日 家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ
- 2017年8月8日 家にお風呂が入るまで
- 2017年6月30日 気候風土適応住宅のススメ
- 2017年6月3日 掛川総会３
- 2017年5月31日 掛川総会２

人気のある記事

- 伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 18件のビュー
- 家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー
- 設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家 11件のビュー
- 工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー 8件のビュー
- 設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家 5件のビュー
- 家にお風呂が入るまで 5件のビュー
- 無くなっては困る！刻み用電動工具：込み栓角ノミを復活させるためのアクション 5件のビュー
- サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート 5件のビュー
- 日本人の暮らしと木 4件のビュー
- 込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記 4件のビュー

この記事のタグ

- 木の家の暮らしと子育て
- 災害と木の家
- 環境と共生する家づくり

同じタグがついた別の記事

- 2007年6月27日 つくり手の声：暑さ寒さとつきあう知恵
- 2004年7月25日 五月組：あのサツキとメイの家を建てる
- 2014年8月8日 設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家
- 2003年4月25日 設計士・岩波正さん(三和総合設計)：なんで木の家がいいのか、とことん考える
- 2011年10月27日 工務店・直井徹男さん(エコロジーライフ花)：発信しつづける工務店、人が育つ工務店

関連する記事はこちら

里山循環大工：池山琢馬（一峯建築設計）
3.11後を生き抜くコミュニティーの力　牡鹿半島 福貴浦より
原発に頼らない家づくり＆暮らし方
木の家ネット会員の声：地震・津波・原発災害で考えた事
つくり手の声：暑さ寒さとつきあう知恵

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

手のひらに太陽の家
大場江美さん（サスティナライフ森の家）
日影良孝さん（日影良孝建築アトリエ）

1 2 3 4
Like 0　ポスト

3.「手のひらに太陽の家」プロジェクトが実現するまで

震災で行き場を失った子ども達のための共生住宅を

大場江美さん：木造仮設住宅を提案する時期は逃してしまいましたが、復興に向かう過渡期には、現在主流の応急仮設住宅のように家族ごとで暮らしが小さく完結するのでなく、みんなで助け合って共同生活ができる大きな家があったらいいな！という思いは、ますます強くなっていきました。とはいえ、もう、避難所から仮設住宅への移行が進んでいってしまったのですから、ほかにどんなニーズがあり得るか、考えました。

木の家ネット ヨハナ：大場さん、粘られましたね〜　被災したから支援を、というだけでなく、共生していける暮らしを通じて、被災というマイナスをプラスの未来に転じていこうという夢を感じます！

そこで思いついたのが「親を失った子ども達が笑顔を取り戻せるための場」ということでした。バイオマスネットワークの理事長の佐々木豊志が長年「くりこま高原自然学校」で子ども達のための環境教育に取り組んでいて、困難な状況に置かれた子ども達のケアをしてきたこともあり、ハードとしての家をつくるだけでなく、そのあとのソフト面での運営もできるだろう、と。

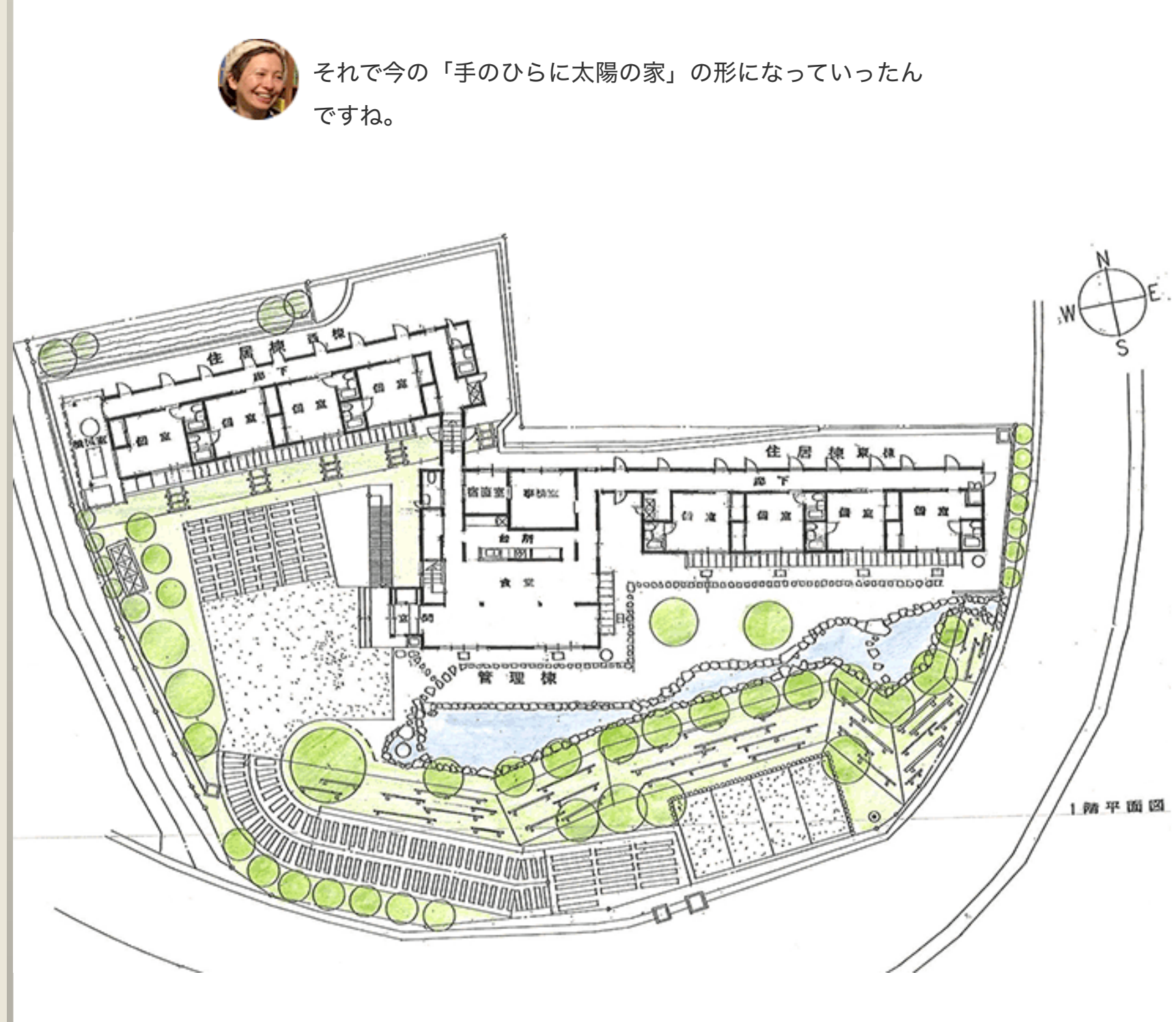
設計者である日影さんのスケッチがあり、大場さんのところで地元の山とつながった建築ができ、佐々木さんが子ども達が自然や人と関わりながらの暮らしを見守る。思いを同じくする異業種の人が集まっているバイオマスネットワークだからこそできることですね！

とはいえ、震災遺児や孤児を受け入れるのは、法律的な意味でいろいろ難しいということが分かり、沿岸部の父子家庭や母子家庭に呼びかけを始めました。この時点ではまだ県内というイメージしかなかったのですが、動いて行くうちに知り合ったのが、子どもたちを放射能から守るネットワーク 福島の吉野裕之さんです。強制避難区域に指定されていなくても、放射線量が高い地域がかなり広範囲にわたってあることを初めて知り、びっくりしました。

報道は「直ちに人体に影響はない」の一点張りでしたものね。

で、吉野さんから「福島に住み続ける子どもたちを放射能の影響から守るには、保養が必要。福島から２時間という立地にそのような施設ができたら、利用したい親子はたくさん居ますよ」という聞き、ここに強いニーズがあったのか！と。

それで今の「手のひらに太陽の家」の形になっていったんですね。


住居棟
廊下
個室
管理棟
食堂
台所
N
S
W
E
1階平面図

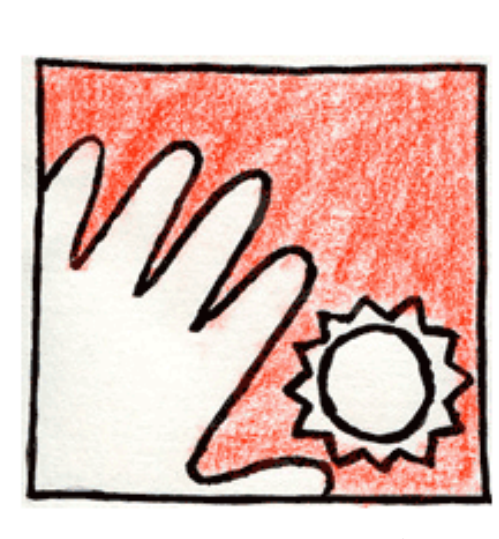
「震災によって困難な状況にある子ども達を支援する」というのが、津波でなく放射能のことだったのか！というのは、予想を越えていましたが、これは本当に必要なことと分かり、沿岸部への声かけをストップし、吉野さんを通じて福島の親子への呼びかけに切り替えていきました。

天災だけで済まない影響がでてきるのは、自然との共生する暮らしから離れてしまった現代だからこそですね。それを困難な状況にある子ども達を中心とした共同生活を通して取り戻していく場として「手のひらに太陽の家」があるんですね。

子どもには、自然の中で思いっきり遊べて当然なのに、福島の子ども達は、その機会が奪われてしまいました。お母さんたちは、子ども達が育つ環境のことで、心を痛めています。「手のひらに太陽の家」に保養に来る時には、好きなだけ外遊びができ、お母さん達も共同生活する中で自然と悩みを語り合ったりできます。構想していた「自然の中で自然と人、人と人とが共生できる家」が誰にとって必要か。それは時代とともに変わっていくでしょう。今は、そしてそれがどれくらい長くなるか見当もつきませんが、今しばらくは、福島の親子のためにあるんですね。

本当によかったです！ところで「手のひらに太陽の家」って、誰でも知っている「みんなみんな生きているんだ友達なんだ」っていうあの歌の歌詞ですよね。それをネーミングに使ったのはすごい！ですよね。

名付け親は日影さんなんですよ。それにロゴマークのデザインも。日影さん「設計のできる詩人」なんですよ〜



「手のひらに太陽の家」のロゴの元になった、日影さん手描きのスケッチ。完成したロゴは、太陽がもう少し上になった。

協力者を募り、資金を集め、土地が決まり、設計が進み・・

ところで、構想を裏付けてプロジェクトを実現しているには、多額の資金が必要となるわけですが、どのように調達したのですか？

そもそも木の仮設住宅に積極的でない宮城県やそれにならう自治体には期待できない。となると、土地の取得から企画、実行までを民間ですることになるわけで、これは大変なことで、佐々木さんと一緒に企業まわりをしました。協力してくれそうな企業もあったのですが、「日本の森バイオマスネットワーク」が当時はまだ寄附をする側の税制優遇措置がとられる認定NPO法人になっていなかったために「多額の寄附」を受けにくかったりで、資金集めは難航しました。そこで「これはいよいよ、著名人に呼びかけをして、小口の寄附を一般の方からかき集めるしかないかな」ということで、くりこま高原自然学校とも縁の深い、アウトドア総合ブランドのモンベルグループの辰野さんに呼びかけ人になってもらおうとお願いをしに行ったです。

佐々木豊志さん：震災後、モンベルグループの辰野さんは、アウトドア義援隊をいち早く立ち上げ、登米に拠点を置きながら、特に子どもや女性の支援に力を入れた活動をしていました。アウトドアブランドですから、もともと私たちくりこま高原自然学校とは昔からつながりはあったのですが、同じ時期に被災地支援に入っていたということで、情報交換や協力連携などする場面も多くありましたね。そんなご縁で「手のひらに太陽の家」の建設にあたっても、支援をしていただくこととなりました。

辰野社長にお会いするなり「今から小口で集めてるんじゃ間に合わない。全部うちでみるから！」と言われ、土地の取得から建設費まですべてのの面倒を見てくださることが決まりました。これで、ようやく実現できることとなり、本当にありがたかったです。土地探しが二転三転しましたが、2011年8月には敷地が決まりました。

そこから日影さんによる設計が本格的にスタートしたんですね。

いや、その前にスタートはしていて、敷地候補が４、５回変わりましたから、そのたびに設計のし直しで、日影さんは大変でしたよ。電車が復旧していなかった頃ですから「敷地が変わった」と連絡するたびに、夜行バスで飛んで来てくれてね。これが全部ボランティアワークだったんですから！

地元の木を使った木の空間、被災されている方の再スタートを応援するような空間配置、プライバシーと共同生活の両立、自然エネルギーでの運用など、てんこもりの条件をよくまとめられましたよね。それにネーミングからロゴまで！まさに、日影さんの代表作となりましたね。

日影良孝さん：ただでさえ大変な思いをしている人たちが「今いるところは素敵なところ」と思えるような、本物の木の家を作りたい。たんに入れ物として素敵なだけでなく、手を取り合って、つながりをもって生きていけるような、そんな家にしたいという思いで取り組みました。それは、プレハブ協会がつくる仮設住宅には、ないものです。

2012年1月に着工
わずか８ヶ月間でオープン！

そして10月から、もうひとり強力な助っ人が来てくれました。現場監督をつとめることになる久保田純夫さんです。久保田さんは、自然素材の家づくりに取り組む福島の建設会社の東京支社でバリバリ働いていた方で、彼の登場で、この難しい工事がやれるという目処がつきました。

規模が大きいだけに、とりまとめるべき大工さんたちも職方さんも大勢になりますし、設備、防火面など、法的な調整も大変ですものね。

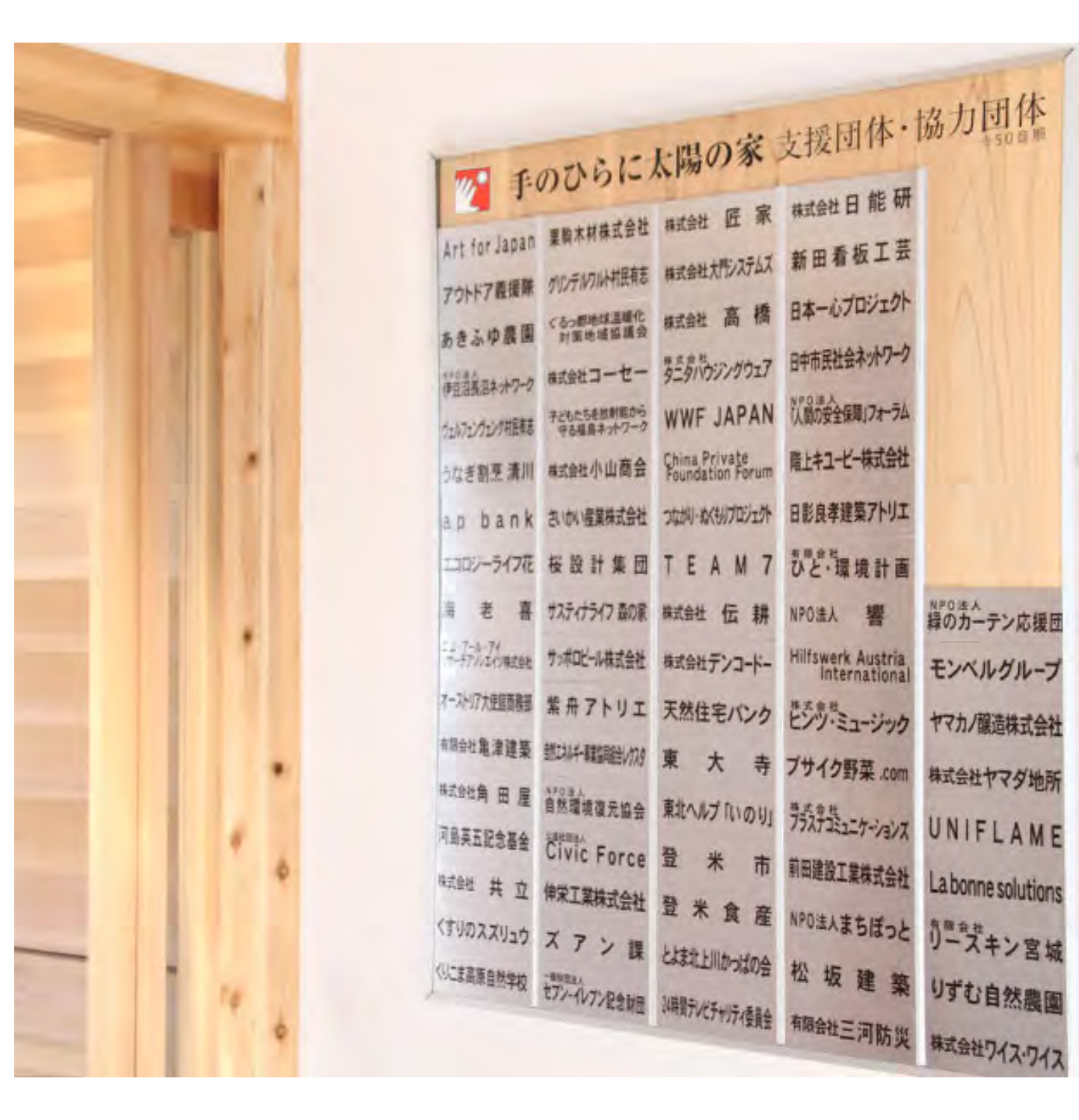
久保田純夫さん

久保田純夫さん：ぼくは福島県出身なんです。家族を福島に残して東京に単身赴任していた時に、震災に遭いました。大場さんからこの企画のことをそして「誰も工事をとりまとめられる人がいない」ということを聞いた時に「今こそ、育ててもらった東北の役に立つ時だ」と思い、前の会社を退社し、サスティナライフ森の家に転職しました。大変な現場だけれど、今こそ自分の現場経験を活かす時だと身震いする思いでした。「誰のために働くのか」ということをこれほど意識したことはなかったですね。

2012年の１月には確認がおりて、着工したのですが、施工面では大工の確保にも苦労しました。サスティナライフ森の家で施工をお願いしているベテラン大工さんはもちろんいるのですが、人数が圧倒的に足りないので、バイオマスネットワークの全国の会員工務店さんから、木組みの仕事がわかる大工さんたちの応援をいただきました。

そして、2012年の７月には完成。これだけの規模の建物が、震災後で物資も人手も不足する中、着工半年にして完成とは、すごいですね。

みんながんばってくれたからこその、奇跡です！


手のひらに太陽の家 支援団体・協力団体
（50音順）
Art for Japan
アウトドア義援隊
あきふゆ農園
うなぎ割烹 濱川
ap bank
エコロジーライフ花
海老喜
オーストリア大使館商務部
有限会社亀津建築
株式会社角田屋
河島英五記念基金
株式会社共立
くすりのスズリュウ
くりこま高原自然学校
栗駒木材株式会社
株式会社コーセー
子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク
株式会社小山商会
さいかい産業株式会社
桜設計集団
サスティナライフ森の家
サッポロビール株式会社
紫舟アトリエ
自然環境復元協会
Civic Force
伸栄工業株式会社
ズアン課
セブン-イレブン記念財団
株式会社匠家
株式会社大竹システムズ
株式会社高橋
タニタハウジングウェア
WWF JAPAN
China Private Foundation Forum
つながり・ぬくもりプロジェクト
TEAM 7
株式会社伝耕
株式会社デンコードー
天然住宅バンク
東大寺
東北ヘルプ「いのり」
登米市
登米食産
とよま北上川かっぱの会
24時間テレビチャリティ委員会
株式会社日能研
新田看板工芸
日本一心プロジェクト
日中市民社会ネットワーク
「人間の安全保障」フォーラム
日影良孝建築アトリエ
ひと・環境計画
NPO法人 響
Hilfswerk Austria International
ブサイク野菜.com
前田建設工業株式会社
NPO法人まちぽっと
松坂建築
有限会社三河防災
NPO法人 緑のカーテン応援団
モンベルグループ
ヤマカノ醸造株式会社
株式会社ヤマダ地所
UNIFLAME
La bonne solutions
りずむ自然農園
株式会社ワイス・ワイス

オープン、そして現在。

そして、いよいよオープンを迎えました。構想当時は宮城県の津波被害で親を失った子たちをイメージしていましたが、そのような子たちはすでに親戚や施設に引き取られていった後になっていました。むしろ福島県の放射能汚染地域の母子の保養のニーズの方がうんと高かったですね。予想していなかったことでしたが、これだけのニーズがあるのだから作ってよかったとも思いましたね。

福島の放射能汚染の場合、強制避難区域ではないけれど線量が高い地域ができてしまいました。そこが居ていい場所なのかいけないのか、分からないという不透明な「行き場のなさ」「息苦しさ」がずっと続いていますものね。

福島に住み続ける場合でも、ときどきは線量の低い地域で身体をリセットする「保養」が、身体的にも精神的にも有効です。かなしいかな、これは、震災直後の一時的なことではなく、ずっと続いていくニーズです。

親が子の保養場所をアレンジして、個人的な旅行で対応する、というのでは大変ですものね。

それに、放射能汚染のケースでの保養に必要なのは、場所だけではないんですよね。相談相手になれるスタッフ、たまたまいっしょに滞在することになる、似たような状況にある家族、いっしょに遊べる子ども。そこに人が居て、つながりがあることが大切ですから。

となると、持続的な運営体制が不可欠ですね。

そのためにみなさんのご理解をいただきながら寄付金を募り続けていくほか、「手のひらに太陽の家」自体が、自らまわしていけるような採算事業を生み出して行くことも必要でしょうね。モンベルとのつながりの中で、アウトドア、自然体験系での展開が考えられますので、取り組んでいきたいと思っています。

研修やイベントで、貸しスペースとして活用することもできると聞いています。

そうなんですよ！木造関係者の皆様、ぜひ、使ってくださいね。

「手のひらに太陽の家」のWebサイト。利用申込みもここからできます。

1.「手のひらに太陽の家」の概要
2. 東日本大震災の発生〜「手のひらに太陽の家」構想の誕生
3.「手のひらに太陽の家」プロジェクトが実現するまで
4. サスティナライフ森の家の取り組み：自伐林業と復興支援住宅

Like 0　ポスト

1 2 3 4

手のひらに太陽の家の上棟式

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事
2016年12月23日 掛川総会
2016年8月2日 込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記
2016年6月21日 熊本震災レポート 2
2016年6月9日 大工たちによる「家戻し」の記録
2016年5月21日 熊本震災調査レポート
2016年4月28日 古川 保の熊本市川尻町 震災日誌
2016年3月31日 2/16 衆議院第二議員会館 調査報告会レポート
2016年1月27日 地域型住宅の省エネルギーを探る 〜2016.1.17 京都フォラム報告
2016年1月14日 第15期 木の家ネット総会 高知大会 〜会員発表篇〜
2015年11月13日 工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー

人気のある記事
伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 18件のビュー
家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー
設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家 11件のビュー
工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー 8件のビュー
家にお風呂が入るまで 5件のビュー
無くなっては困る！刻み用電動工具：込み栓角ノミを復活させるためのアクション 5件のビュー
サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート 5件のビュー
設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家 5件のビュー
日本人の暮らしと木 4件のビュー
込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記 4件のビュー

この記事のタグ
木の家の暮らしと子育て
災害と木の家
環境と共生する家づくり

同じタグがついた別の記事
2010年5月31日 設計士・吉野勲さん(創夢舎)：家族が つどう、地域が そだつ
2007年6月27日 つくり手の声：暑さ寒さとつきあう知恵
2007年4月1日 設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり
2011年10月27日 工務店・直井徹男さん(エコロジーライフ花)：発信しつづける工務店、人が育つ工務店
2006年1月26日 つくり手の声：木の家の良さって？

関連する記事はこちら

里山循環大工：池山琢馬（一峯建築設計）

3.11後を生き抜くコミュニティーの力　牡鹿半島福貴浦より

原発に頼らない家づくり＆暮らし方

木の家ネット会員の声：地震・津波・原発災害で考えた事

つくり手の声：暑さ寒さとつきあう知恵

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

手のひらに太陽の家
大場江美さん（サスティナライフ森の家）
日影良孝さん（日影良孝建築アトリエ）

エコラの森での伐採

1 2 3 4

Like 0　ポスト

4. サスティナライフ森の家の取り組み：自伐林業と復興支援住宅

それは、夢を形にするプロセスでもあった

木の家ネット ヨハナ：一連のお話を聞いていて、これは被災地の復興支援でもあるけれど、どのような未来を作って行きたいのかということをよりはっきりさせていくことでもあったのだろうなと感じました。

大場江美さん：家族を失った子ども達のためであると同時に、自分たちのためでもあったと思います。それが表裏一体だったからこそ、情熱をもってがんばれたのかもしれません。

手のひらに太陽の家
太陽の家

「手のひらに太陽の家」の枕詞として「持続可能な復興共生住宅」というコピーがついています。仮設住宅、復興住宅というだけでなく「持続可能」「共生」ということを実現しようとされたことが、支援者となっていた企業や団体や個人の共感を得たのではないでしょうか。

失ったものを補うだけでなく、そこにプラスの価値を付加していく。そのことで、前を向いて生きていける。そこが、何家族分のこういう広さの住宅を何戸用意しましょう、というだけのこととは、違うところですね。

建築は、誰が、どのような思いで、どのような素材を使って、誰に建ててもらうのかで、出来上がったもののもつ包容力とかあたたかみがまるっきり違ってきます。建物そのものだけでなく、建物にかかわる人の流れ、お金の流れもまったく変わってきます。

やはり、取り戻したいんです。地元がより豊かになるために、地元でまわしていく。そのことで、地元に活力が戻ってくるはず。「すべてプレハブ協会がする手はずになっている」というのが、震災当時の状況でしたし、今も復興住宅の建設も、大手住宅メーカーの仙台支社が営業してまわっているような現状があります。けれど、それでは、地域の雇用にも、地元の山の健全な運用にも、風土にあった風景も、自然にねざしたエネルギー自給にも結びつかない。そこを変えていきたいですね。

これからのサスティナライフ 森の家

非営利団体である「日本の森バイオマスネットワーク」も、工務店であるサスティナライフ森の家も、めざしているのは「地球との共生」。自らが動くことで「地域資源を活かした持続可能な未来をつくる」という行動目標も共通しています。「手のひらに太陽の家」をつくることを通して、そのめざすところを形にできたのは、とても大きなことだったと思います。それも、多くの賛同者、協力者を得ながらできたということは、これからの未来を作って行く仲間が増えたということでもありますよね。

そうですね。ネットワークも工務店と同じメンバーがかぶってやっているので、非営利活動と仕事とのバランスをとるのが難しい面はありましたが！

もっともっと関われる森づくりを「エコラの森」での取組

これから、どんなことをしていきたいですか？

自分たちで森づくりをして、そこの森で伐った木で家づくりをするということを流行らせていきたいですね。

「エコラの森」外観

森づくりから取り組むということですか。地元の木で家を作るというところから、もう一歩踏込みましたね！

家を作るのも、森づくりに関わるのも、お施主さんであってほしいのです。「自分が関わっているあの森の木で、家をつくる」という意識です。そのために「NPO法人しんりん」を立ち上げ、放置されていた山を整備、育林するところから始めています。

どこでやっているのですか？

大崎市鳴子温泉の川袋温泉地区に25年ほど前にリゾート開発に失敗した後、乱伐され放置されたままの260haの荒廃した森林買取り、ここを「エコラの森」と呼んで活動の拠点とし、プロの「きこり」の伊藤淳さんが常駐して森の整備を進めています。

「エコラ」というのはどういう意味ですか？

星正晴さんが出された絵本「エコラ」に登場する「地球にやさしい怪獣」というキャラクターから名前をいただきました。この「エコラの森」を整備しながら、雑草を片付けて整地して植林したり、山菜やキノコを育てたり、間伐材を出荷したり、さまざまに利用しながら、森をよみがえらせています。

エコラの森

そこに、一般の人が関われるということですね？

じつは、「NPO法人しんりん」の真の目的は「一般の人を『きこりさん』にする」ことなんですよ！二日間の日程のチェーンソー講習を実施して、伐採までできるような人材を育てます。プロにならなくてもいいんです。家庭菜園や日曜大工の延長で「日曜林業」ができる「きこりさん」、いいでしょ？ 森の手入れや木の伐採を指導しながら、森の整備に関わっていただき、きのこや山菜など森の幸も楽しんでもらう。そんな森での体験が、いつか家を建てることになった時に「その森で伐採した木で家を建てる」ということにまでつながっていけばいいな、と思っています。

自伐林業ですね！

これまでは、山の所有者が整備や伐採といった施業を外注するというケースが殆どでした。けれど、それでは、どうしても赤字になってしまう。所有者自らが、自分の庭を管理するような感じで森に手を入れ、伐採して自分で使う、あるいは売って自分の利益にする、というような、小規模で持続可能な林業を支援したいし、自ら作ってもいきたいんです。「エコラの森」は、自分で森をもっていない人が使える「みんなの森」として位置づけています。

エコラの森から伐採された木。これがサスティナライフ森の家で建てる家の材になる。

自分の森、自分たちの森であれば、山の幸を収穫して楽しんだり、ツリーハウスやビオトープを作って遊んだり、キャンプしたり、いろいろできそうです！それがさらに、家づくりにまでリンクしていったら、おもしろいことになっていきますね。ところで、何本くらい木を伐採したら、30坪ぐらいの標準的な家をつくる分の材をまかなえるんですか？

木の家ネットのほかのつくり手のみなさんのところもそうだと思いますが、無垢の木をあらわして手刻みでつくる家は、サスティナライフ森の家の場合、胸高直径24cm-26cmの木で高さが16mぐらいの木だと、歩留まりを考えるとおよそ370本です。今、一般的な新建材を使う木造住宅だと、160本ですから、かなり多いですよね。

なるほど。なぜ伝統的な木の家、無垢材をあらわした家が山を救うのが具体的にわかる、説得力のある数字ですね。自伐林業と家づくり、なんとも期待できる組み合わせです！全国的に広がっていくといいですね。

「NPO法人しんりん」でも、今年の５月から、東鳴子温泉の大沼旅館さんと提携した「湯守の森プロジェクト」というあらたな取組みをスタートしました。福島に落とし込み板壁の木造仮設住宅を実現された安藤邦廣先生にご指導いただきながら、その森の木を使って板倉の家をつくる「板倉マイスター養成講座」が始まっています。

左：「板倉マイスター養成講座」の受講生。若い女子率が高い　右上：こんな板倉を作れるようになります　右下：大沼旅館のお湯

興味深いですね〜。水源涵養、二酸化炭素の吸収、レクリエーションなどいわゆる「森林の公益的機能」が入り口になりながら「森の生産的機能」である森とつながる家づくりにまでつながっていく、そんな流れを人々の間に生み出しているのですね。建築材とまではいかなくても、森から暖房に使う薪やペレットの材料をとることもできそうです。

森の整備に関わり、薪を持ち帰るという方もいらっしゃいますよ。自伐林業が持続していくためのひとつのポイントは、お金をかけない、良い方法があれば、試してみること！最近、下草刈り部隊として、牛を飼い始めましたが、カノジョたちは那須にある森林ノ牧場さんから譲っていて、こちらに来てくれました。毎日毎日、下草を刈って食べてくれるので、大助かりです。

江美さんに「エコラの森にいらしてください！牛を飼い始めたので」と言われた時には、森の隣に牧草地でも作ったのかなーと思っていたんですが、森に住んでいるんですね。

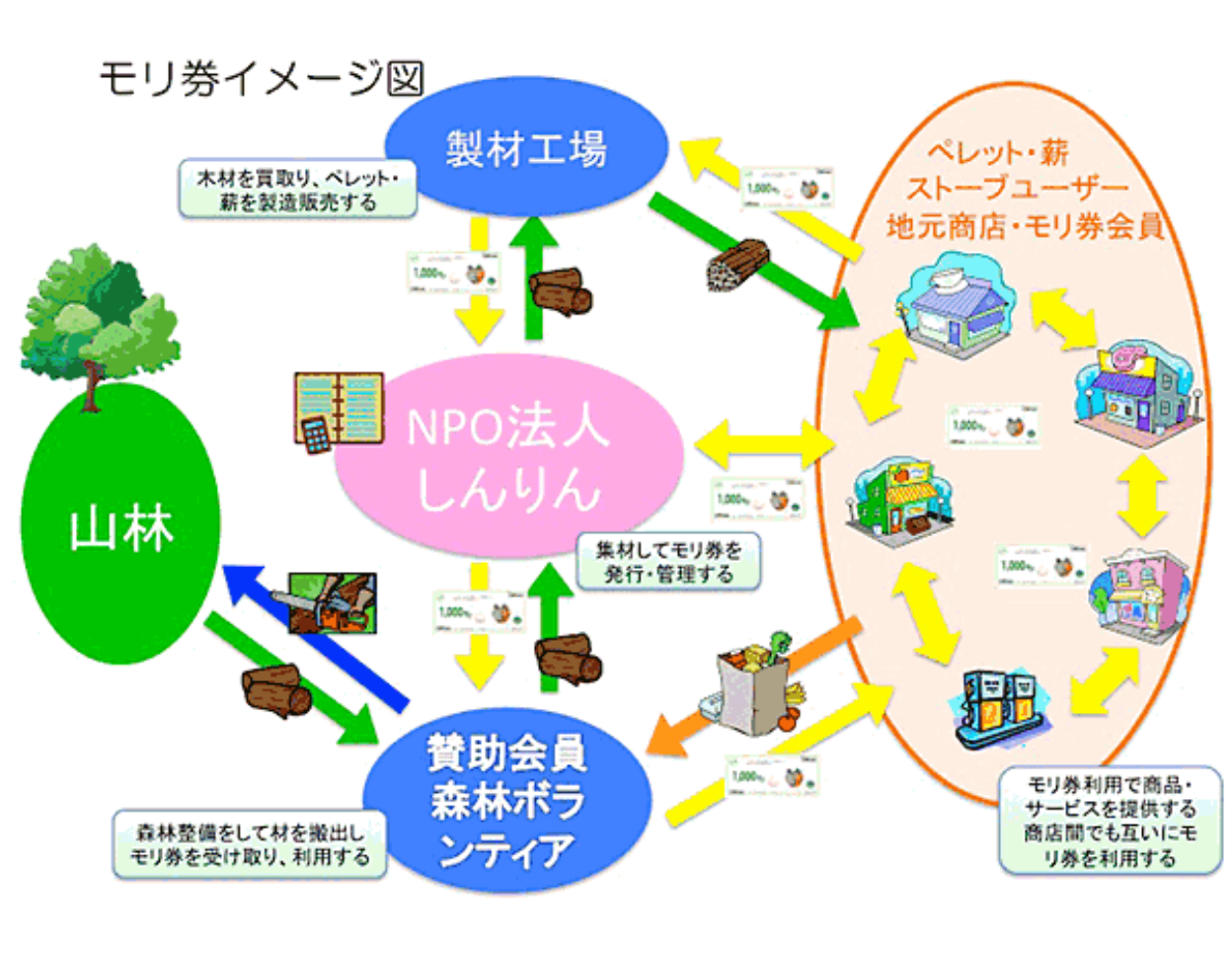
次は、名取市で津波で被災した養豚業者さんのところの津波を生き延びた豚を連れて来て、余生をエコラの森で過ごしてもらいながら、植林をするところの地ごしらえをしてもらう「有賀豚（ありがとん）プロジェクト」を考えています。馬を連れて来て、伐採した木材を馬で搬出する馬搬やホースセラピーもいいな〜

森と人だけでなく、生きものもいっしょになっての共生ですね！森に連れていっていただいた時には、敷地内に見つけたわき水のまわりをビオトープとして整備するのに夢中な方もいらっしゃいましたね。

バックフォーという小型の機械でのプチ開発で、自然な形を活かして森で遊べるようにしていって、親子連れで楽しんでもらえる森を作っていきたいと思います。

ここまでいろいろお話を聞いてしまうと、「エコラの森」に行ってみたい！という人が続出しそうですよね。一般の人がどのように「エコラの森」や「湯守の森」に関われるか、具体的にお聞かせください！

森に関わりたい人には、「NPO法人しんりん」のプロのきこりさんの手ほどきで二日間の「チェーンソー講習」を受けていただきます。そして実地で、森林整備や伐倒作業をいっしょにします。作業した人には「モリ券」という地域通貨が発行されますので、加盟店で、ペレットや家具といった林産物を買う代金、食事、「手のひらに太陽の家」の宿泊費などにお使いいただけます。詳しくはサイトをご覧ください。


モリ券イメージ図
製材工場
木材を買取り、ペレット・薪を製造販売する
ペレット・薪ストーブユーザー地元商店・モリ券会員
山林
NPO法人しんりん
集材してモリ券を発行・管理する
賛助会員森林ボランティア
森林整備をして材を搬出しモリ券を受け取り、利用する
モリ券利用で商品・サービスを提供する商店間でも互いにモリ券を利用する

地域通貨モリ券をめぐるしくみ。お金は動かないのに、
地域資源と人がぐるぐるまわるいい循環ができていきます。

KIKORI しんりん
イベントご案内
しんりん一般会員募集中！
しんりん賛助会員募集中！
モリ券使用加盟店募集中！
新着情報
ボランティアの声
モリ券使用加盟店の声
手のひらに太陽の家プロジェクト
くりこま高原自然学校
湯守の森
facebook

「NPO法人しんりん」のWebサイト

被災地の未来に向けての復興を支援する工務店としてがんばりたい

工務店としては、津波で被災した沿岸部にも、地元の木をふんだんに使った家や建物の建設を手がけています。

もう大分進んでいるのですか？

いいえ、ほとんどが「これから」ですね。県外のみなさんから見れば「震災から３年も経つのに、まだ家が建たないの？」と思われるかもしれませんが、もともと家が建っていた浜は、津波警戒区域となり家を建てられないので、まずは高台などに敷地を造成するところから始めないとなりません。造成に至るまでも、その土地の権利関係の整理、土地購入やインフラ整備など、さまざまな手続きや段取りが必要で、復興住宅建設はようやく「これから」というところです。今やっているのは、高い防潮堤を築くことですよ。そこに資材も人手も割かれていて、なかなかその先にある高台移転にまで手がまわらないようです。

先日、宮城県牡鹿半島の福貴浦でもお話をうかがいましたが、「高台移転がもう始まっている」とすれば、いい方。「完成していればおどろくべき早さ」と言っていいぐらいです。

再建しなくてはいけないのは、家だけではありません。地域の施設、生業のための建物などもあります。いずれにしても「以前よりも、もっといいものを」つくることで、未来への希望をもてるよと、元気になっていただけることを目指しています。

白壁の美しい街並みをつくる三棟の家 三家族で敷地を造成分割しての復興住宅

震災から丸三年が経ち、ようやく移転先の400 坪の敷地の造成が完了。三家族で分割し、それぞれの復興への思いを載せた家づくりが始まっています。三家族三棟の家が、外観は白壁を基調とした漆喰仕上げで、趣のある街並みになる予定です。三棟が連続して上棟を迎えたため、大忙しでしたが、皆様がここから力強い一歩を踏み出していっていただけますように願っています。

前浜マリンセンター 住民の手で再建する地域の文化拠点

今、手がけているのは、震災によって流出したコミュニティセンターを行政主導でなく、住民の手で再建するという「前浜マリンセンタープロジェクト」。20代〜60代の地域住民が建設委員として参加して、地域材を伐採したり、間取りを議論したり、ワークショップで焼き杉やウッドデッキを作成しました。新しくできるコミュニティセンターが祭などの文化活動の復活、防災拠点、地域復興のシンボルとして活用されています。

ワタママ食堂 地元のお母さん達が働くお惣菜屋さん

ワタママスマイル
ワタママ食堂
お弁当

東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市渡波地区で、渡波のお母さんたち（ワタママ）が手づくりする弁当を販売、配達を行ってきたワタママ食堂。仮設住宅や被災したお年寄りに弁当や総菜を届けて好評を得ていましたが、店舗の解体に伴い2012年4月に閉店しました。その復活を望む地域の声に応えて、木造平屋建ての店舗を新築しました。調理場と販売コーナーのほか、住民が団らんできるスペースも設けました。

一棟一棟、丁寧にコミュニケーションされているのが伝わってくるようですね。これからも、ますますお忙しいとは思いますが、持ち前の素晴らしいネットワークを活かしながら、がんばってくださいね！

1.「手のひらに太陽の家」の概要
2. 東日本大震災の発生〜「手のひらに太陽の家」構想の誕生
3. 「手のひらに太陽の家」プロジェクトが実現するまで
4. サスティナライフ森の家の取り組み：自伐林業と復興支援住宅

Like 0　ポスト

1 2 3 4

新デザインになった手のひらに太陽の家のモンベルTシャツを着た、大場さんファミリー。 これを買って、着ていただくことも「手のひらに太陽の家」の支援になります。お求めはオンラインショップよりどうぞ！　お父さんはクマではなく、この時は所用で欠席でした。

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事
2015年11月9日 第14期 木の家ネット総会 岐阜・加子母大会
2015年9月15日 里山循環大工：池山琢馬（一峯建築設計）
2015年7月27日 独立電源＝オフグリッドの家
2015年6月13日 どう？ 古民家暮らしって？？
2015年5月6日 冬の温熱調査合宿報告
2015年3月13日 伝統構法をユネスコ無形文化遺産に！
2015年1月6日 私はこう書きました！ 木の家ネット会員が出したパブコメ
2015年1月1日 改正省エネ法についてのパブリックコメントを出そう！
2014年12月12日 改正省エネ法で、土壁はどうなる？
2014年11月26日 無くなっては困る！刻み用電動工具：込み栓角ノミを復活させるためのアクション

人気のある記事
伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 18件のビュー
家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー
設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家 11件のビュー
工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー 8件のビュー
家にお風呂が入るまで 5件のビュー
無くなっては困る！刻み用電動工具：込み栓角ノミを復活させるためのアクション 5件のビュー
サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート 5件のビュー
設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家 5件のビュー
日本人の暮らしと木 4件のビュー
込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記 4件のビュー

この記事のタグ
木の家の暮らしと子育て
災害と木の家
環境と共生する家づくり

同じタグがついた別の記事
2006年1月26日 つくり手の声：木の家の良さって？
2004年7月25日 五月組：あのサツキとメイの家を建てる
2005年7月25日 四天王幼稚園ワークスクール：ぼくがこれ、つくったんだ！
2007年6月27日 つくり手の声：暑さ寒さとつきあう知恵
2003年4月25日 設計士・岩波正さん(三和総合設計)：なんで木の家がいいのか、とことん考える

関連する記事はこちら

里山循環大工：池山琢馬（一峯建築設計）

3.11後を生き抜くコミュニティーの力　牡鹿半島福貴浦より

原発に頼らない家づくり＆暮らし方

木の家ネット会員の声：地震・津波・原発災害で考えた事

つくり手の声：暑さ寒さとつきあう知恵

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

木の家ネットとは　つくり手リスト　特集　入会案内　イベントカレンダー　問合せ

地域別つくり手リスト

北海道・東北
北海道
青森県
岩手県
宮城県
秋田県
山形県

関東（東京以外）
栃木県
群馬県
埼玉県
千葉県
神奈川県

関東（東京）
東京都

甲信越・北陸
新潟県
富山県
石川県
福井県
山梨県
長野県

東海
岐阜県
静岡県
愛知県
三重県

関西
滋賀県
京都府
大阪府
兵庫県
奈良県
和歌山県

中国・四国
鳥取県
岡山県
広島県
山口県
徳島県
香川県
愛媛県
高知県

九州
福岡県
佐賀県
長崎県
熊本県
大分県